

平成 24 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(尺里西・中・東、高松、山下)

開催日時	平成 24 年 10 月 2 日 (火) 午後 7 時から午後 9 時	天気 晴れ
場所	向原児童館	
町民参加者	男 13 人 女 2 人 (40 代以下 0 人、50 代 0 人、60 代以上 15 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、企画財政課長、総務防災課長、政策秘書課長、定住対策室長、福祉課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：防災対策》

- 防災計画を見直していると説明があったが、避難所の変更、見直しはあるのか。向原地区の場合、尺里川や滝沢川が想定以上の増水となった場合、橋を渡って行けるか心配。そう言った視点からも、最終避難場所は選定していただきたい。
- 17 号台風では、安心メールの情報が非常に役立った。夜間の大雨の時は必ず雨戸を閉めているので、防災無線は殆ど聞こえない。そこで思ったのですが、平時から自主避難の訓練も実施して、こういった事態なるか経験しておく必要があるのではないか。
- 自主防災組織では、地区内をまとめる自治会長の役割が非常に重要だと感じている。しかし、尺里東地区には自治会員名簿がない。自治会長には町から名簿の提供をすべきだ。
- 山北中学校内に設置されている防災倉庫にはどんな機材が用意されているのか知らない。平時から自治会長には合鍵を持たせていただきたい。
- 消防庁が出している自主防災組織の手引きに、現状の山北町の自主防災組織をあてはめると、組織として機能できていないと感じている。町としては、実態を把握しているのか。
- 自治会長が防災リーダーになることは困難であると感じる。私は自治会長の仕事が無いのは月 2、3 日しかない。その合間に 200 ページからなる防災の手引を読んで、自主防災の強化を図ることはできない。組長も 1 年交替。
- ゲリラ豪雨などの災害は現実のものとして迫ってきている。忙しいから自主防災が組織化できないでは済まされない。皆が日ごろからの防災対策の必要性を認識する必要がある。

《テーマ：その他》

- 初めて座談会に参加したが、議論されている内容が身近なものであり、町から提供される情報が充実していることに驚いた。防災の話などは家にいる時間が長い女性が特に聞くべきだ。

○天社神社付近で県がなんらかの地盤調査をしていると説明があったが、調査結果は出たか。

○集会所の備品が古くなりテーブルなどは使えなくなってきた物もあるので、学校の統廃合で備品が余っていたら、譲っていただけるものがあれば助かる。

○防災用品の購入の補助率を 90%まで上げていただき大変助かっている。なぜ、10%の自治会負担があるのか。

○山下の町営住宅を調査後に修繕すると言っていたが、雨漏り対策のコーティング等を実施したのか。

○県の財政緊急対策で町内にあるいくつかの施設が廃止と報道された。町としてどう考えているのか。